

上下水道局

令和6年度 重点目標

- 1 持続可能な事業運営の推進
- 2 きれいで安全な水を供給する上水道事業の推進
- 3 上水道施設の計画的な維持・更新
- 4 下水道施設の計画的な維持・更新
- 5 危機管理体制の充実

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標			持続可能な事業運営の推進		部局名	上下水道局	優先順位	1 位
総合計画における 位置付け			第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け		4 日本を代表する循環型社会をつくる	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け			(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築					
現況・課題			・給水人口の減少や節水意識の高まり等により料金収入が減少する一方で、上下水道施設の更新や耐震化費用の増加が見込まれることから、上下水道事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。こうした状況に対応するため、「水道ビジョン」、「下水道ビジョン」及び上下水道事業経営戦略を踏まえ、定期的に事業を見直しながら、健全な経営を進めていく必要があります。 ・熟練技術者の退職や異動により、技術力の確保と継承が難しくなっています。また、上下水道に係る専門知識に加え、公営企業職員として企業会計に対する知識の習得も求められます。 ・このように基盤強化が急務であり、令和6年度から上田長野地域水道事業広域化協議会において、水道事業の広域化についてより詳細な検討・協議を進めていくことになり、協議の状況等を踏まえ、上田市としての方針を決定する必要があります。 ・上下水道料金の収納等に関する業務は民間業者に包括委託していますが、引き続き収納率の向上に努める必要があります。					
目的・効果			・ビジョンや経営戦略に沿って事業を推進することで、財源とバランスのとれた投資を行うことが可能になります。 ・外部研修受講や資格取得の奨励を促進し、次の世代につなげる人材育成を図ります。 ・上田長野地域水道事業広域化協議会に参加し、水道事業の広域化の検討、協議を進め、持続可能な事業運営方法を検討します。			該当する SDGsの目標		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○水道事業広域化の検討 (1) 上田長野地域水道事業広域化協議会での協議 (2) 広域連携に関する調整会議への参加 (3) 上下水道審議会での審議、答申及び庁内検討 (4) 広報掲載、住民説明会等の開催		(1)～(4) 4月～3月	(1) 協議会への参加、検討、協議 (2) 運営会議、専門部会への参加 (3) 市としての方針決定 (4) 市民への周知	(1) 協議会設立(4/8)、協議会2回開催(4/8、7/30) (2) 運営会議、各専門部会での調整（施設整備計画、財政シミュレーション、基本計画(素案)等） (3) 上下水道審議会(3回)、庁内検討委員会(1回) (4) 広報掲載1回(5月号)、市民説明会準備・調整		(1) 協議会設立(4/8)、協議会4回開催(4、7、10、2月) (2) 幹事会、運営会議、各専門部会での調整（施設整備計画、財政シミュレーション、基本計画(素案)等） (3) 上下水道審議会8回、庁内検討委員会2回開催 方針検討中 (4) 広報掲載3回、市民説明会開催（9会場／延べ446人参加） 地域協議会、商工会、建設業関係団体、婦人団体等説明	
②	○経営戦略改定・料金算定 (1) 水道及び下水道に係る経営戦略の改定 (2) 令和7年度からの上下水道料金改定について審議会に諮問、答申		(1)(2) 4月～3月	(1) 経営戦略の改定 (2) 料金算定	(1) 年度末公表に向け、見直し作業中 (2) 上下水道審議会に諮問(4/22) 審議4回(4/22～7/31)、答申(8/6) 平均改定率：水道18.5%、下水道11.7%引き上げ		(1) 経営戦略の中間見直し策定完了 (2) 水道料金＋18.5%改定 下水道使用料＋11.7%改定	
③	○人材の育成 継続的な外部研修の受講促進や資格取得の奨励による人材育成の実施		4月～3月	外部研修・資格取得研修受講 ・事務系講習会 延べ12人 ・上下水道技術関係 延べ25人 ・作業資格取得講習会 延べ10人	外部研修・資格取得研修受講（9月末現在） ・事務系講習会 延べ6人 ・上下水道技術関係 延べ20人 ・作業資格取得講習会 延べ2人		外部研修・資格取得研修受講 ・事務系講習会 延べ22人 ・上下水道技術関係 延べ26人 ・作業資格取得講習会 延べ5人	
④	○収納率の向上 水道料金・下水道使用料（現年度分）		4月～3月	収納率 水道 99.56%以上 下水道 99.45%以上	収納率 水道 98.95% （9月末現在、前年同期98.96%） 下水道 98.91% （9月末現在、前年同期98.83%）		収納率 水道 99.55%、下水道 99.43% （参考） 令和5年度 水道99.56%、下水道99.45% 計99.50% 令和4年度 水道99.41%、下水道99.42% 計99.42%	
⑤	○水洗化の促進 公共下水道地域、農業集落排水事業地域の戸別訪問等による水洗化促進の実施		4月～3月	新規接続戸数 750戸	新規接続戸数 437戸（9月末現在、前年同期439戸）		新規接続戸数 852戸（目標比 113.6%）	
⑤	○下水道の基盤強化の検討 局内及び上田長野地域水道事業広域化協議会での研究		4月～3月	連携方法等の研究	上下水道事業分離による地域の共通課題解決に向けた研究・検討 ・下水道事業広域化の有効性 ・上下一体での事業の研究 ・下水道業務との共通業務の取り扱い		上下水道事業分離による地域の共通課題解決に向けた研究・検討 ・下水道事業広域化の有効性 ・上下一体での事業の研究 ・下水道業務との共通業務の取り扱い	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題			

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		きれいで安全な水を供給する上水道事業の推進			部局名	上下水道局		優先順位	2 位
総合計画における 位置付け		第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築							
現況・課題		・上水道の水源は、河川の表流水、ダム水、地下水、湧水など28箇所あります。このうち、湧水水源の一部には、降雨時における濁質やクリプト汚染等による影響により、水質が不安定になることから、この対策が急務となっています。このような湧水水源に対しては、この上流域で水質が安定し水量が豊富な湧水水源による給水に切り替えを進めているところですが、これらの水源の有効活用により維持管理の軽減化が求められています。							
目的・効果		・安定した湧水の活用を行うことにより、気象の影響を受けやすい湧水水源の代替や、配水系統間の相互融通や水運用の改善が図られ、より良質で経済的な水の供給が可能となります。 ・安全安心な水道を将来に渡って維持し、持続的な水道水の供給を確保するため、水質管理体制の強化を図ります。				該当する SDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○水源の安全性向上 （1）水源の確保 （2）水源の水質検査強化	4月～3月	(1) 岩清水配水池流入流量計設置 (2) クリプトスポリジウム検査 12箇所 21検体 指標菌検査 22箇所 96検体	(1) 岩清水配水池流入流量計設置 発注済 施工中 (2) クリプトスポリジウム検査 前期分実施済 8箇所 11検体 指標菌検査 22箇所 50検体		(1) 岩清水配水池流入流量計設置 発注済 R7年度繰り越し (2) クリプトスポリジウム検査 12箇所 21検体 指標菌検査 22箇所 96検体			
②	○水質監視体制の強化 検査及び管理機器更新	4月～3月	水質検査機器更新 蒸留水製造装置 クリーンベンチ 水質計器更新 染屋第4配水池残留塩素計 腰越浄水場水質計器	水質検査機器更新 蒸留水製造装置 契約済 クリーンベンチ 後期購入予定 水質計器更新 染屋第4配水池残留塩素計 後期発注予定 腰越浄水場水質計器 発注済 施工中		水質検査機器更新 完了 蒸留水製造装置 完了 クリーンベンチ 完了 水質計器更新 染屋第4配水池残留塩素計 発注済 R7年度へ繰り越し 腰越浄水場水質計器 発注済 R7年度へ繰り越し			
③	○地下水源の運用拡大整備事業の推進 滝の入水源を活用した新たな導・配水施設の整備	4月～3月	滝の入水源整備における各種団体との協議調整、工事発注準備	滝の入水源整備における各種団体との協議調整、工事発注準備 （環境省許可済、県林務課・上田市東御市真田共有財産組合協議中）		滝の入水源整備における各種団体との協議調整、工事発注準備 （環境省許可済、県林務課・上田市東御市真田共有財産組合協議中）			
④									
⑤									
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		上水道施設の計画的な維持・更新			部局名	上下水道局		優先順位	3位
総合計画における 位置付け		第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築							
現況・課題		・上水道の施設及び管路は老朽化が進行し、特に1980年から2000年の敷設ピーク時の管路が今後、更新時期を迎えることになるため、法定耐用年数（40年）を経過した老朽管が年々増加していきます。また、耐震化率が低い水準にあることから、大規模地震が発生した場合、水道水を供給する機能の多くが損なわれる可能性があることから、老朽施設の更新や耐震化を早急に進めて行く必要があります。							
目的・効果		・老朽化した水道施設や管路の更新及び耐震化は、市民生活に欠くことのできないライフラインである上水道の強靱化を進めるために必要不可欠な事業であり、施設の更新に当たっては、アセットマネジメントによる更新需要と中長期的な財政推計を踏まえながら、計画的に進めてまいります。また、上水道管路の計画的更新や耐震化は、日常の管破裂や漏水などの減少につながることから、有収率の向上が期待できます。				該当する SDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○上水道基幹管路の耐震化及び経年管の更新、有収率の向上	4月～3月	更新延長 L=1.3km 有収率 85%	更新延長 L=2.1km 有収率 82.16%（9月末現在、前年同期83.06%）		更新延長 L=3.5km 有収率81.62%（前年同期83.35%） 上田市上下水道耐震化計画 策定			
②	○計画的な水道施設整備の推進 （1）更新・新設 （2）耐震工事	4月～3月	(1) 染屋急傾斜地管路更新 1箇所 北部配水池系減圧弁設置 1箇所 (2) 染屋6号ろ過池耐震補強 1箇所	(1) 染屋急傾斜地管路更新 後期発注予定 北部配水池計画変更により 延期 (2) 染屋6号ろ過池耐震補強 発注済・施工中		(1) 染屋急傾斜地管路更新 補助事業導入のため計画変更、R7.8発注予定 北部減圧弁設置 現場精査により事業効果が上げられないことが判明し中止 (2) 染屋6号ろ過池耐震補強 完了			
③	○ポンプ設備等の更新	4月～3月	ポンプ設備等の更新 上田地域 3箇所 丸子地域 3箇所	ポンプ設備等の更新 上田地域 倉升1号ポンプ 久保田2号ポンプ 神科2号ポンプ 発注済施工中 丸子地域 池の芝第1ポンプ（1号・2号）施工中 箱置送水ポンプ非常用発電機 中止		ポンプ設備等の更新 上田地域 倉升1号ポンプ 完了 久保田2号ポンプ 繰越 神科2号ポンプ 繰越 丸子地域 池の芝第1ポンプ（1号・2号）完了 箱置送水ポンプ非常用発電機 中止			
④	○浄水場等設備更新 浄水機器更新	4月～3月	浄水場施設機器更新 上田地域 2箇所 丸子地域 2箇所	浄水場施設機器更新 上田地域 染屋緩速ろ過池制御機器 後期発注 染屋中央監視制御盤更新 後期発注 丸子地域 腰越浄水場油分計更新 後期発注 鹿教湯浄水場急速ろ過池連通弁更新 計画変更により延期		浄水場施設機器更新 上田地域 染屋浄水場設備更新 発注 繰越 染屋中央監視制御盤更新 中止・計画変更 丸子地域 腰越浄水場油分計更新 繰越 鹿教湯浄水場急速ろ過池連通弁更新 中止 計画変更			
⑤									
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		下水道施設の計画的な維持・更新		部局名	上下水道局		優先順位	4 位
総合計画における 位置付け		第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」に おける位置付け		4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築						
現況・課題		・下水道が建設から維持管理の時代に移行していく中、施設の老朽化が課題となっており、老朽化が進む施設の計画的な更新を図るため、下水道施設長寿命化計画及び後継計画であるストックマネジメント計画を策定し事業を実施しています。今後は、安定した下水処理を維持するため、長期的な計画に基づいた施設の更新を実施していく必要があります。 ・人口の減少や少子高齢化の進展、省エネルギー化など、社会情勢の変化に伴い、市民のライフスタイルも大きく変わる中、下水道事業も建設から維持管理へと大きく役割が変わってきており、維持管理の効率化を図る必要があります。 ・下水道施設の維持管理の効率化を更に図る上で、公共下水道施設への接続が有利と思われる農業集落排水施設については、公共下水道との統合についても検討が必要です。						
目的・効果		・安定した下水処理を確保するため、下水道施設長寿命化計画及びストックマネジメント計画による施設の更新を図ります。 ・社会情勢の変化に対応した効率的な施設の維持管理を図るため、農業集落排水施設と公共下水道施設の統合計画を進めます。			該当する SDGsの目標	6安全な水とトイレを世界中に 9産業と技術革新の基盤をつくろう 11住み続けられるまちづくりを		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○し尿前処理下水道投入施設の建設 (1) 土木・建築工事（R5-R7債務負担） (2) 機械・電気工事（R6-R7債務負担）		4月～3月	(1) 土木・建築工事の実施 (2) 機械・電気工事の実施	(1) 5月21日 下之条自治会 工事着手説明会開催 6月～ 工事着手 (2) 4月 日本下水道事業団と協定締結 5月 公告開始 7月 機械工事：(株)西原環境にて落札・工事契約 電気工事：横河ソリューションサービス(株)にて落札・工事契約		(1) 3月 工事実施中（繰越） (2) 3月 機械工事：機器製作実施中 3月 電気工事：計器等製作実施中	
②	○長寿命化事業・ストックマネジメント事業及び耐震化事業の実施 (1) 南部終末処理場ほか3箇所 設備更新工事（R5-R6債務負担） (2) 南部終末処理場 設備更新工事（R6-R7債務負担） (3) 南部終末処理場耐震化工事 (4) 上塩尻ポンプ場、神川東ポンプ場 圧送管二条化工事 (5) 鉄蓋更新工事等		4月～3月	(1) 工事の実施・完成 (2) 協定の締結、工事の実施 (3) 協定の締結、工事の実施 (4) 工事の実施・完成 (5) 鉄蓋更新工事 西内工区 N=53枚 管渠更生工事 下長瀬地区 L=18.61m、 西内工区 L=158.6m 管口耐震化工事 西内工区 N=8箇所	(1) 7月 機器製作着手 (2) 5月 日本下水道事業団と協定締結 (3) 4月 日本下水道事業団と協定締結 9月 工事着手 (4) 上塩尻ポンプ場圧送管 計画見送り 神川東ポンプ場圧送管 計画見送り (5) 鉄蓋更新工事 西内工区 N=46枚 発注済 管渠更生工事 下長瀬地区 L=17.4m 設計中 管渠更生工事 西内工区 L=157.7m 設計中 管口耐震化工事 西内工区 N=8箇所 設計中		(1) 3月 一部工事完了及び3件工事実施中 (2) 3月 機器製作実施中 (3) 3月 工事実施中（繰越） (4) 上塩尻ポンプ場圧送管 計画見送り 神川東ポンプ場圧送管 計画見送り (5) 鉄蓋更新工事 西内工区 N=46枚 工事完了 管渠更生工事 下長瀬地区 L=17.4m 工事完了 管渠更生工事 西内工区 L=158.6m 工事完了 管口耐震化工事 西内工区 N=8箇所 工事完了	
③	○農業集落排水施設統合事業の推進 (1) 豊殿南部地区⇒林之郷地区 (2) 山田地区⇒八木沢地区		4月～3月	(1) 工事の実施 (2) 財産処分申請の提出	(1) 7月 工事着手 (2) 7月 財産処分申請書の提出		(1) 3月 工事完了 (2) 3月 財産処分申請書受理	
④	○農業集落排水施設の機能強化事業の実施 (1) 富士山処理場の機能強化工事（R5-R6債務負担） (2) 武石処理場の機能強化工事（R6-R7債務負担）		4月～3月	(1) 工事の実施・完成 (2) 工事の実施	(1) 6月 工事着手 11月 工事完了予定 (2) 9月末 実施設計完了 11月末 入札予定		(1) 3月 工事完了 (2) 11月 工事契約 3月 防食工事実施中	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題			

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		危機管理体制の充実			部局名	上下水道局		優先順位	5 位
総合計画における位置付け		第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第5節 安定した経営による上水道・下水道事業の継続			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		4 日本を代表する循環型社会をつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築							
現況・課題		・上下水道建設から維持に携わってきた熟練技術者の退職や職員異動等により、災害時に迅速に対応できる技術の確保が課題となっています。大規模災害などに備え、災害時の応急給水活動体制など、ソフト面での対応が必要です。							
目的・効果		・施設の更新や耐震化は限られた財源の中で進めて行くことから長い期間を要します。しかし、自然災害はいつ発生するかわからず、施設の耐震化が不完全なうちに起ることも想定されます。そのため、災害が発生した際の復旧体制や応急対策を整えておくことは、迅速な災害復旧対応に繋がります。				該当するSDGsの目標	9産業と技術革新の基盤をつくろう	11住み続けられるまちづくりを	
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○防災訓練の実施 防災訓練の実施による危機管理対応能力の向上	4月～3月	応急給水訓練 2回 緊急連絡管操作訓練等（県営水道、東御市、長和町、青木村）各1回 灯油等流入事故対応訓練 1回 他水道事業体との合同訓練 1回	応急給水訓練：前期1回実施 その他の訓練は後期に実施予定		応急給水訓練3回（上水道課1回、丸子・武石上下水道課2回） 緊急連絡管操作訓練等 県営水道、長和町、青木村：各1回 東御市：東御市接続工事の遅延により未実施 灯油等流出事故対応訓練 1回			
②	○災害時等、緊急時の体制整備 (1)危機管理マニュアル整備 (2)緊急連絡管の整備	4月～3月	危機管理マニュアルの見直し 東御市との緊急連絡管接続工事 L=70m（神の倉）	(1)危機管理マニュアル整備中 (2)東御市との緊急連絡管接続工事 L=91.5m（設計中）		(1)危機管理マニュアルの見直し□ (2)東御市との緊急連絡管接続工事 L=94m神の倉 繰越（R6→R7）			
③									
④									
⑤									
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					